

2022年度 経営学研究科(結果)

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる。	
		実施状況(実施率)		評価		評価の理由/課題/根拠データ等	
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた中長期目標検討および年次目標の設定 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保	①引き続きカリキュラム改定検討準備委員会を設置し、学部の二学科制に連動するビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改定準備に取り組んだ。本件をテーマにFPDも実施した。 ②Webサイトページの情報更新に加え、修了生の活躍や情報を掲載した。3コース合同の大学院説明会を継続して実施し、加えてビジネス・マネジメントコースの公開報告会を同時開催した。修士論文公開報告会後には、同じくビジネス・マネジメントコースの公開報告会を実施した。 ③学部のガイダンスや説明会毎に、会計や税務など国家資格に関係するキャリアや、飛び級の説明を行い、研究科進学の意義と内部特別選考試験の周知を図った。	80%	①本研究科の専任教員体制が学部との兼任を基礎とするため、学部の二学科制導入により、ビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改定作業は引き続き継続となった。 ②3コース合同の大学院説明会を継続し、ビジネス・マネジメントコースの公開報告会を併催したことは前進であり、社会人向けのアプローチとしての可能性を評価できる。 ③コンテンツ・マネジメントコース3名、ビジネス・マネジメントコース1名の内部進学者を確保した。	2023年度入学者 志願者数38名 前年比 111% (+4人) 合格者数27名 前年比123% (+5人) 入学者数22名 前年比146% (+5人) 辞退者数5名 昨年比71% (-2人) 内部進学者者数 4名 昨年比 200% (+2人)	①将来構想とカリキュラム検討委員会をひとつにすることで、内容の充実した発展性のあるカリキュラム改定を実施したい。 ②修了した院生の活躍や情報が常に更新・発表され、それがそのまま研究科の効果的な広報に繋がり、修了生にも貢献できる様な仕組みを模索したい。 ③内部進学者の研究内容や、修了後の就職や活躍の情報を、学部生にうまく伝える仕組みを検討したい。		
(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画	FD研修会を令和4年3月4日(土)にテーマ「会計学専攻設置について」で実施した。	100%	将来構想のひとつとしての「会計学専攻設置」であった。可能性と同時に多くの課題も示された。		急速に発展・進化する生成系AIについては、研究科運営に大きな影響を及ぼすと想像されるので、早い段階でFDで取り上げ、対応の検討を行いたい。		
(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画	オンラインによる教員合同院生(修了生含)交流会を実施した。	100%	対面での実施を計画していたがCovid-19の感染再拡大により、オンラインでの実施を余儀なくされた。にも拘わらず大勢の教員、修了生が参加し、有意義であった。		Covid-19の収束が予想されるので、今年度は教員、院生、修了生が揃うオフラインでの交流会を実現したい。		
(4)DPを踏まえた授業満足度 2021年度授業評価 4.8(5点満点) 2022年度指標としては同等数値を目指す	2022年度授業評価(「授業に関するアンケート」の平均値)の結果は、前期アンケート(全科目平均値)4.84、後期アンケート結果は、全科目平均値4.94であった。前期、後期ともに目標達成できた。2022年度修了時アンケート結果では、大いに満足88%、まあ満足12%であった。	100%	Covid-19の感染と収束が繰り返された1年であったが、それに対して授業体制も柔軟に対応できたこともあり、総じて満足度は高かったと評価できる。		授業に加えて、報告会や交流会等、教員や修了生も含めてオンライン・オフラインを柔軟に織り交ぜ接触の機会を増やし、総合的に授業満足度の向上に繋げたい。		

2023年度 経営学研究科

PLAN(計画)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ②将来構想プログラム委員会(カリキュラム検討委員会)で検討する(短期および中長期) ③永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ④研究科webサイトの情報更新や追加を継続して実施 ⑤現役院生・修了生の活動や業績等の情報発信 ⑥大学院説明会や修士論文公開報告会での併催企画 ⑦学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ⑧内部特別選考の事前説明会で在学生在が体験談を語る ⑨専門ゼミ担当教員へ前期中から内部進学の可能性がある学生の推薦を募る。 ⑩学生募集の強化 ⑪専門ゼミ担当教員に学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼する(科目等履修生) ⑫1期入試を意識したオンラインによる個別相談会を1月に実施する。 ⑬海外提携先(北京第二外国語大学、北京語言大学、吉林动画学院)からの留学生受け入れのために募集対策を検討する。 ⑭吉林动画学院とASIAGRAPHを通じてアニメーション作品の応募を通じて交流を実施する ⑮新たな学生募集先を模索し、協力・提携関係を設けることで安定的な学生確保の手立てを探る。 ⑯中長期目標の検討 ⑰将来構想プログラム委員会を中心に研究科としての方向性の検討に着手する。 ⑱内部進学に加えて学部卒業生のキャリアアップや学び直しのニーズに応えるための研究科のあり方や施策等を検討していく。	
(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ①大学院教育における生成系AIの活用方法(候補案) ②後期の実施に向けて上記の他の候補も含めテーマを検討していく。 ③従来の専門家による講演会形式に加え、教員によるグループディスカッション形式等の開催方法を検討していく。	
(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ①対面開催の院生交流会(修了生含む) ②M2の代表学生が幹事となり企画・準備・進行を担当する。 ③対面開催に戻すことで交流の密度を高める。 ④在学生・修了生の研究報告会 ⑤2022年度に実施した修士論文報告会との併催企画を検討し、実施時期・方法を検討する。	
(4)DPを踏まえた授業満足度 2022年度授業評価 4.89(5点満点) 2023年度指標としては同等数値を目指す。	